

事件の方針について
先輩弁護士と議論することも



長い付いて事件を担当。新人とはいえ依頼者には、1人の弁護士。「質問がどんどん飛んできましたが、曖昧に答えず、自分なりに調べて検討し、先輩弁護士と議論しながら回答していました」と里内さんは振り返る。人生に関わることだから、丁寧に向き合っていることが大切なだと。現在、離婚相続・後見等の家事事件を取り扱うこと多くの里内さん。自分が結婚して子育てをする今、仕事にいっそうやりがいを感じるという。「以前は、依頼者さんのいうことに腹落ちまではしてなかつたのでしがね。例えば、離婚をされたお父さんが、別居中の子どもに会つとうとき食べたかとかそういう話、やらないです。食物アレルギーが出たら食べたものを病院で報告しないといけない、知らない子どもの命に関わる、自分が子育てを始めハッとしてましたね」。法律上の正論だけでなく、事件の渦中にいる子供たちに寄り添う。

「アクションを起こせば
変えていくける

子どもを産んで感じた
仕事の奥深さ

仕事と育児の両立に
悩んだから楽しい今がある

仕事の奥深さ